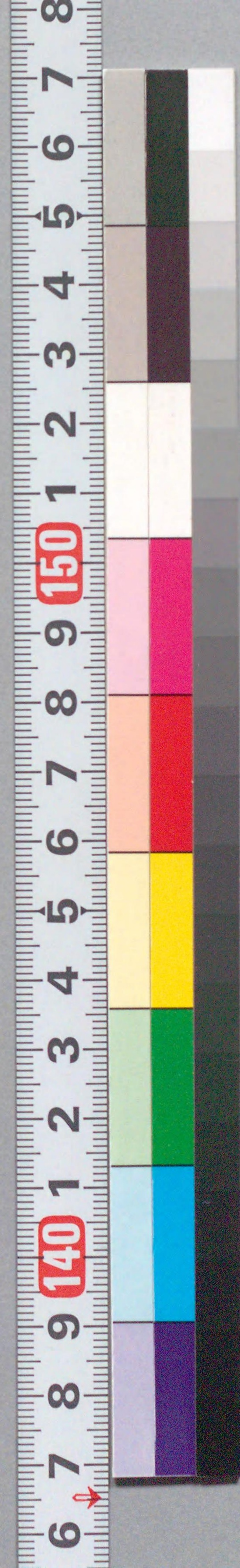
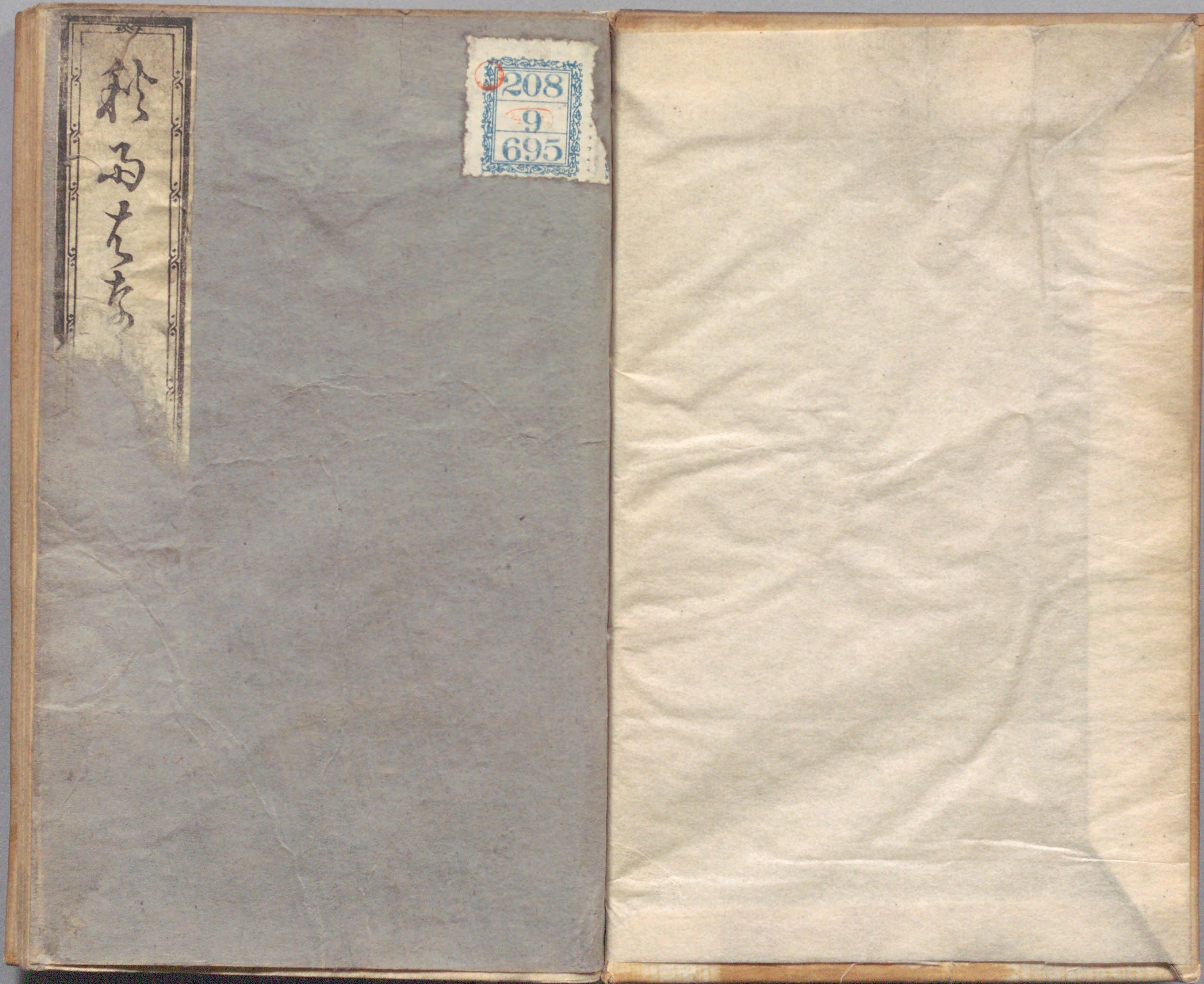
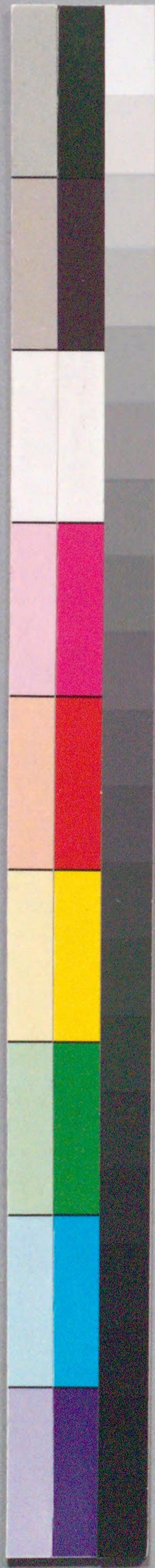




国立国会図書館 秋雨夜話 3編9巻 208-695



ガラス使用



秋
雨
夜
話

208
9
695



秋あき雨あめ夜よ話わたり二編卷之三

第九回

海うみの底そこが子こ作しやく

かくてその目を黄昏たそがれまで。燈い火ひをともして
あつちのけりけり月つきがふ。花はながほのぼのとして
ゆくの。松まつの益えきのふとこりも。花はなに
ま死しとあめしあせ。曉あけ月つきがたつた。至いたる
花はなの死しを死しがせりひさ。臨まる
きこる約束やくそくなる。今いまくくとまちまひ

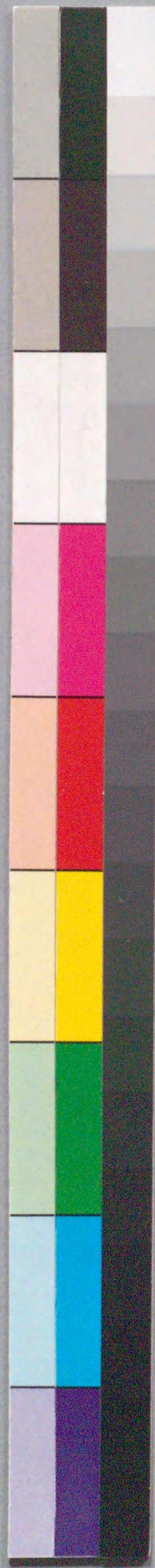


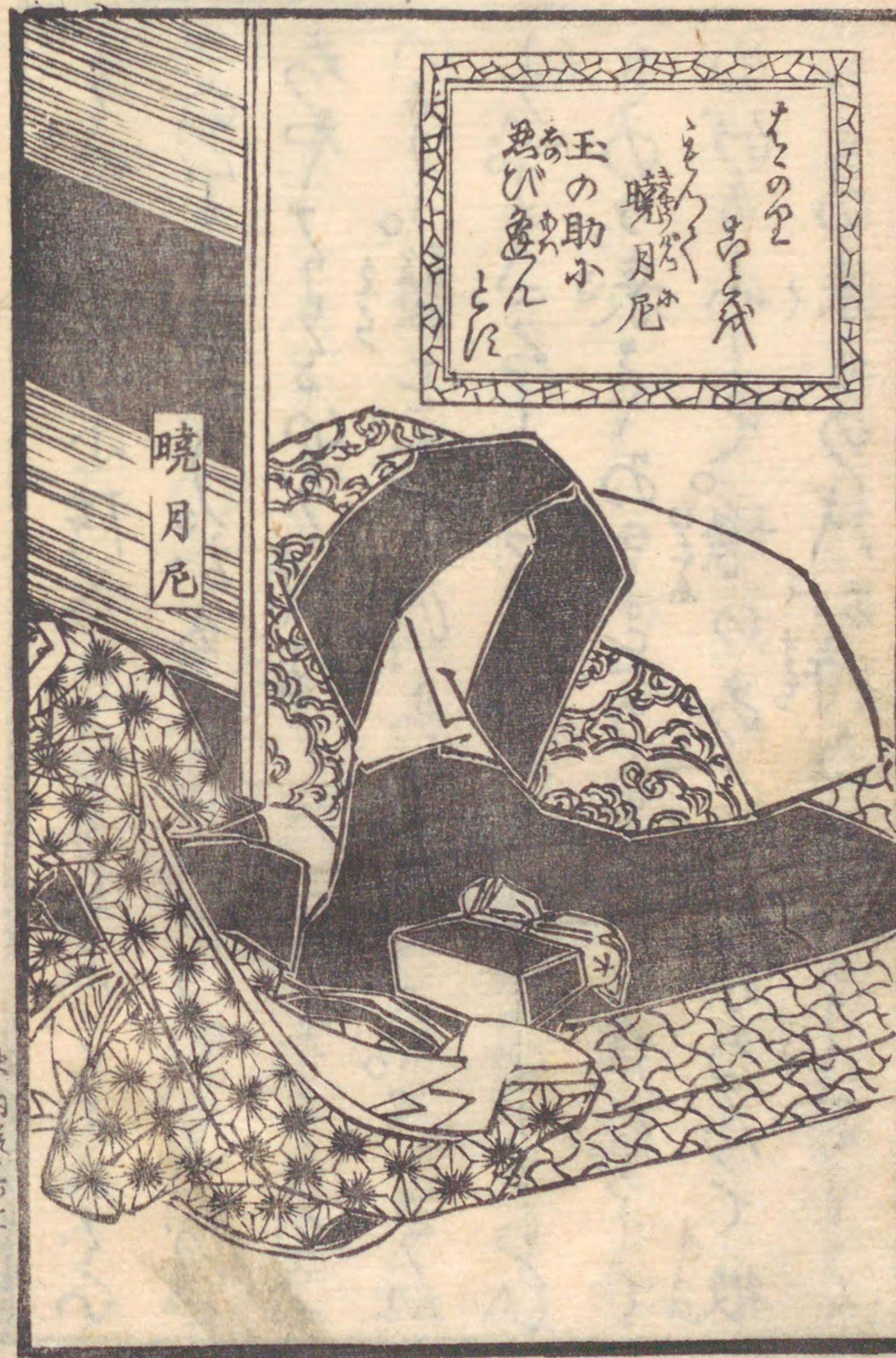
あふ。風のたよりをわらざりけむべ主人の
身のうきづるごとく。あたり小公ならむ
あふ。控むだか家次あつる當よ。どつうか
てぞ走くしゆく。むふより来る四よ手で駕籠
あふ。足あし三さんわしと進しんちぢひ。ふつと氣きうつた立たち
をおり。そと人ひと近ちかげたさのぞた「の」や
あつるお娘おなごさまでらどぞつませぬ。いと
しと直なく流なが石いし志しどけうた。娘むすめあつた

思おもふとぞあつた花はなはしよやらん松まつとやうん
ううアアあつるさまおらん。何どこ處ところへおらん
あつたあつたのよ。よき哉き聞きせとくさう
ませと。たつてついで哉かつらう。廓くわくの
亭てい主しゆもむきとる。駕籠かご次じとて走は
しゆく。さうくさうめとたつと。はさあり
むふ小追おひゆたつ。やらぬくところたさけ
ぶ。うらの方かたよりついでとあらむ。松まつが

あり首引びたはぐみ「引け」やまのうらま。お
るふくめ。ぞまきやアグ松「さう」のあゑら
だまうとおのへぐ。ハ右悪つとものう。ぞるのお主
成ぞと人やる。くと成くら入。何ぞ処小遣や物
う。たまき賣く金小まるら「引」そのやめらさう
う。さうとせてるのうと。あり切きてのけ
物を成ま「引ひ」らくくらみあへあや悪
爰く土つちの。下しと漲なる水みづの音おと。ハ右悪つら

らくとらはく。有う無むともしととまで。松まつ成
ち中ちゆうと蹴けた成せをまらぶるふ。うの谷川やがわへ
はらとさのさうゆ。何なんかのうらとくたまるる成せた。
うらまく水みづ小こをくうらのさうまとく魚ういの急下
まとなりたららわくさとうのたらととまも
うら。さまくも其そのころの曉けう月げつも。王わう之助しゆ成せ見
をまくようら。むこまら心こころ成せららしもんの意いの
重おも荷か小こやせ馬うまの。目めとのりむらる顔色いろす。





は。くちら。残あき。か。く。と。も。の。ど。ご。
年。お。ろ。の。し。の。る。物。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
る。た。け。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
中。人。さん。の。は。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。
く。う。入。で。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
は。勝。手。志。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
志。や。る。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。

か。さ。の。圖。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
は。の。り。で。と。そ。の。目。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
さ。て。曉。月。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
入。小。あ。し。瀬。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
を。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
坊。主。あ。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。

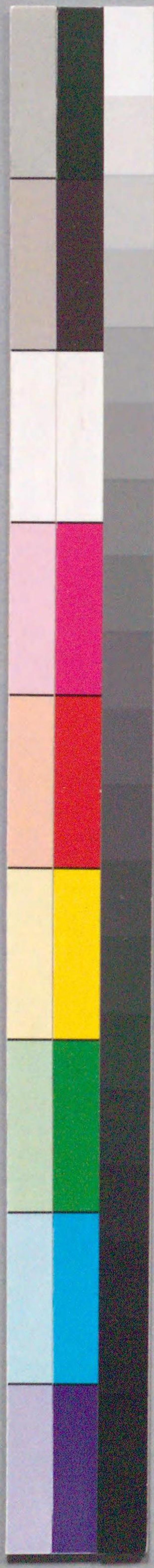


安やすの地ち藏ぞう尊ぞん。宿しゆく志しの地ちを毛けのつはるし。
袈け裟さやあらゆめ小ひん引ひくえく。けみち
たるやぐ中ちゆうぐや。縞あまちりめんのもれ
小こ袖そで。らづまをろえく着きて見みたり。亦また
志しある式しきもろく帯おび。ろくその目め色いろ
らまかまづ。志しぶんと約束やくそくの控かかま
ぎが。かえと急いそげける。控かかまだも支し度どを
とりの人ひとあひく。待まち間ま布ふどなく曉けつ月げつの。

姿すがた見みるようささむの控かかも駭おどろ然ぜん
たる。おろさ式しき。あらえり笑わらひ
か月つきもあましく。だらぶ。おろをうごさる
ほし。ろくもろくもろくもろく。格くわ別べつ
小こあろくく。よくお志しほひが。でたま
志し。サアおろりと志し。あらえり。二ふたろ人ひと
あそく。誘いざな引ひける。かきてま。玉たま之の助すけら。
昨きのう夜や控かかまろか身みのろ人ひとの。一いち大だい事じ。と夢ゆめ

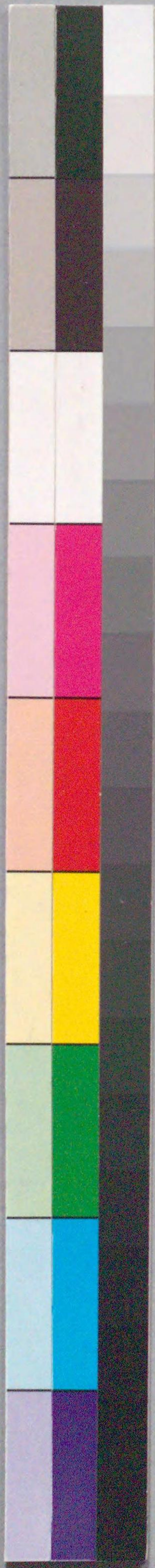
小も。あらぐくさう色し袖のうらり香も。又
逢ふはるぐのうさぞと思ひいらやまを折
くつ小。まじも控ま死た合圖小く。今宵
も首尾残うならびと。聞う色しさをも。大
くさうらだ。暮々残おととほちとび危
か。折あをよけ色と思ひ出ぐ。控ま死たの
かえりさうけ色び。さうものごさく控ま死
と出むうひく。やとくくと急がれて

さぐくさぬニうみ人あがりて見色び。あん
燈の燈とあまのふららく。四方小むやう
あ残さくはま。ほひとんことなる氣
色ちさどをも何があらなく屏風のうら
残さうのぞけ。控まら夜着小身残
ふせく。物おまらしたありさう残見
かう色しさうらうさう。うさ小と岩間
のらう水。うが色のさ急残あびらん



きこえ入ませぬ玉之助さん。かゆ人が去年の
師走の日百万金んあやまんのそののさうら。あつ
とかう何代見そめてよろ。後生ごしやう菩ぶらも
なんのその。かゆひさるる戀こひのやむむの
はう人が日おほして。やまひののりてんから
さふとよ人もなうたうのーさの。ほのろろみ
だのたまの緒ともくえんぐふろろろーさど。
おもひさくても捨すてらぬ。さどける神かみ

のむたあせ。よしくう色いろん今宵こんやの首くび
尾び。そきほどかゆひらろ根ね試しさる様ようく
あらしくゆいさる。裁はりやめんはるま
どうとくと。男おとこのさうとふささうりほく。
拍子ひたしかほらら。だろろろあちてあど
ら以前いぜんのらめらめま。玉の助たまのすけを呆め色いろ
とく。よく見みまが曉けう月げつなり。たが夢あち
を見みしあちく。あどこと葉はを



よゝまたと云々然おしらく。恥辱哉か
せしちをいさ。今さらふとらむ共
歸らぬとてわかれ入らむ。わかれと云
づよよくぬ。於きだか仕方と。齒ぐみ
ぬ。あゝもをいさむらたあつむ。その
らた。とてどのなるよ。於きだか二階
成さしのだら。曉月さんあつふ。泣
ておらんぬせら。世けんへ對しとらうぐ

あいの色さくあつららとて。曉月の
け人ち。よくもくどの中ふ。いふ
らとせしぬ。あつらられたのはぬらる事
あつらら。いさうとさふけうふ。女の便
も。あつらら。見さばらうらう。さうくと
あつらら。於きだか今更返さうも暫し
がねとら出さう。漸あつら。聲あげ。



やせん。うんのおめ入さん。遺恨も怨
も。あつめのう。もとりとり。かめ人様
かめんはり。玉さん。おあひこと。居
よ。さるもん。うら。ど。か。氣の毒さん。
氣やさあ。方便を。か。お。入
は。お。お。う。け。な。さん。金。を。壹。兩。さん
な。さん。う。ん。う。ら。う。ら。ち。が。取。持。う。
わけ。よ。う。と。う。ら。う。ら。や。ま。は。た。た。その。の。ち

お。も。う。ら。う。こと。お。ま。る。あ。と。の。お。つ。う。ら。三
つ。中。う。は。む。し。ん。を。り。よ。う。たら。ば。お。は。人
が。う。ひ。う。ら。う。う。ら。お。あ。う。ら。う。人。よ。お。と。と。ま。ま
の。ひ。う。ら。彼。の。事。残。た。の。む。と。う。ら。う。さん
た。と。や。ア。ご。ご。う。ん。や。せん。う。その。時。も。一。も
間。お。合。然。う。ら。う。ら。ち。や。ア。間。う。う。う。ら。う
う。ら。か。お。さ。さん。な。う。ら。う。か。めん。う。ら。う
ら。は。さん。う。ご。ご。う。ん。う。ら。う。め。げ。ま。は。う。ら。う



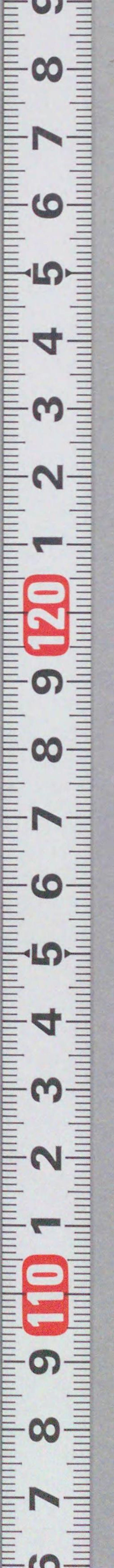
あつ。あひてのうらな男かみ見立まるまはまぐよら
ころふ。あんなまよりののらるお男おふられ
よよとらふ。かかかぎぎののぎくぐく。
かんあぐ。かかかをがはちやや残ののの中中ままア
る。そくおは人のそのお顔かほぐささららく
せらせららひひはは。舌あ残の出いくくてて下しへへゆゆく。
あふらむむむむりり曉あ月づががままつつととたたののり
ふ。あれたたををまま。身み残のふふららいいくくてて齒はががま

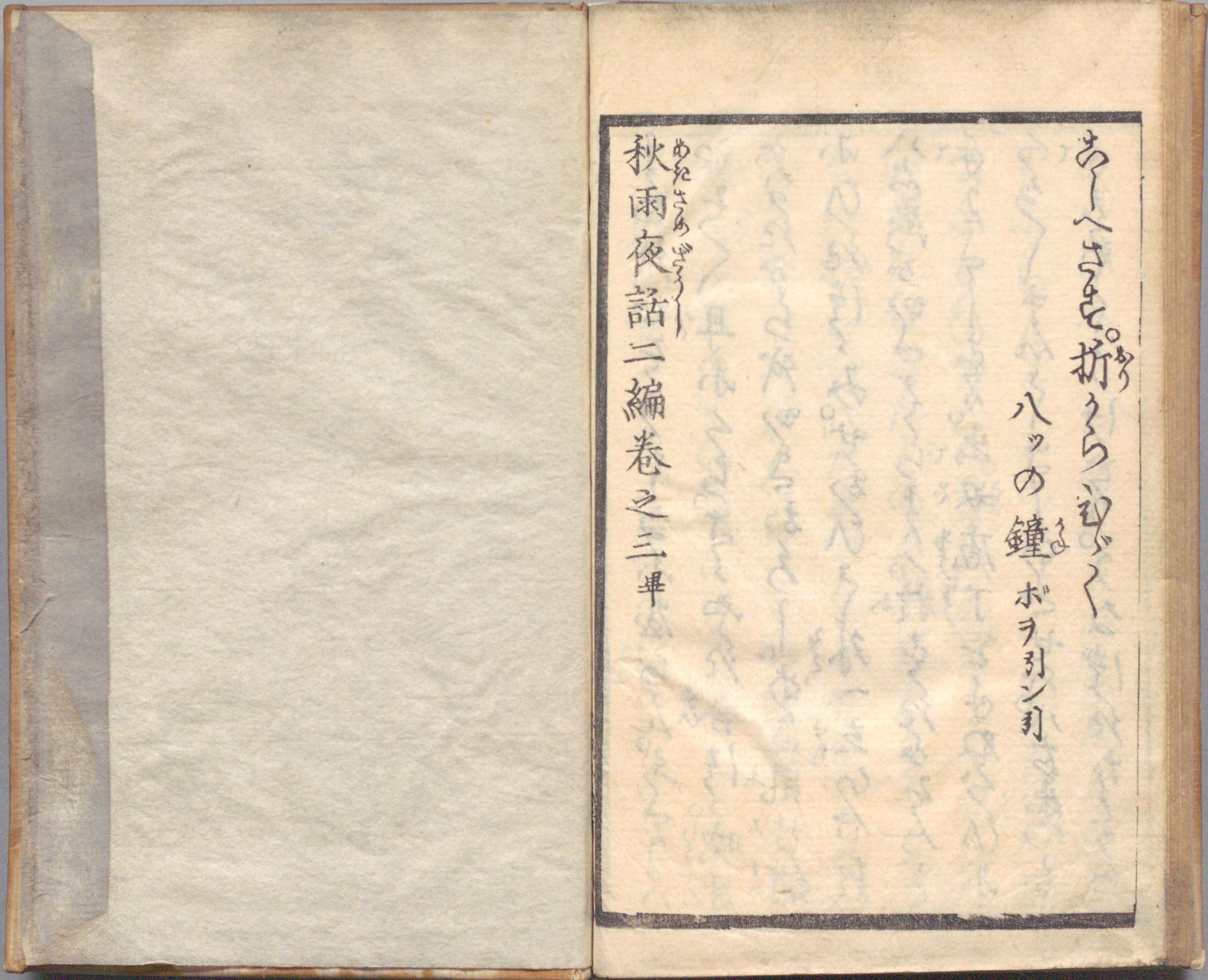
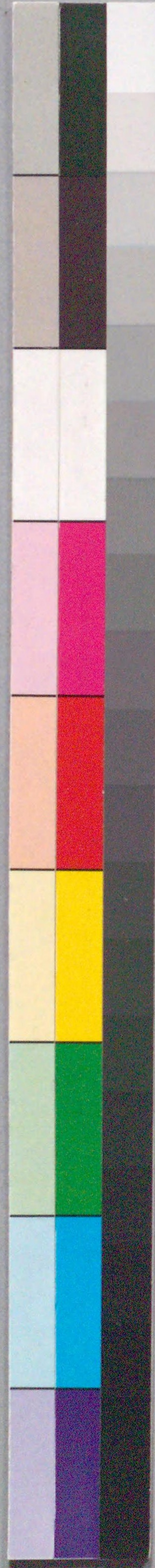
ととふふ。ととふふ。残のふふららいいくくてて身みととつつめ
てて口くちををくく引ひ。ああららいいののととるる露る
ああららむむ。今いまままぐぐ情あふふ。ああままけけ残のくくけけらら。
ををああくくううおお犬いぬ小こ手て残のくくままくくららちち
まま。ああららいいととららいいののももつつののままりり。
かかららたたるる罪つみととららいいののままががらら。ああんんははりり
かかららんん。ああららむむががああららいい。ああららいいたたくくまま
ととつつああららむむ。ああららいいののととららいいくくららちち



かゆひあらざりやかゆひあまじ。たゞら
とふらんぞそのはし。志ぢたの倫
るふせむのま。首残るくやしく死
ける。むざんとらぬもあまらあり。其
ぢた於たはた悲つら。よめややくとも
あらざりて。そらと二ふ残るる人む。
曉月かあのでいたらく。うつら鳥
見わとせく。たゞあてぬはあてり。

まも残むとめくくふならん。あつら
むとく耳ふくらうやた合はる。曉月
か。うたがら残あきあろ。あさ風呂鋪
ふひたはくみ。せあひく外へ立ちけ。
八右衛門がゆいそらより。於たたかそらと
あつら。出ぬ庵丁と子ぬらひ小。
くま。あつら。あつら。あつら。あつら。
あつら。あつら。あつら。あつら。

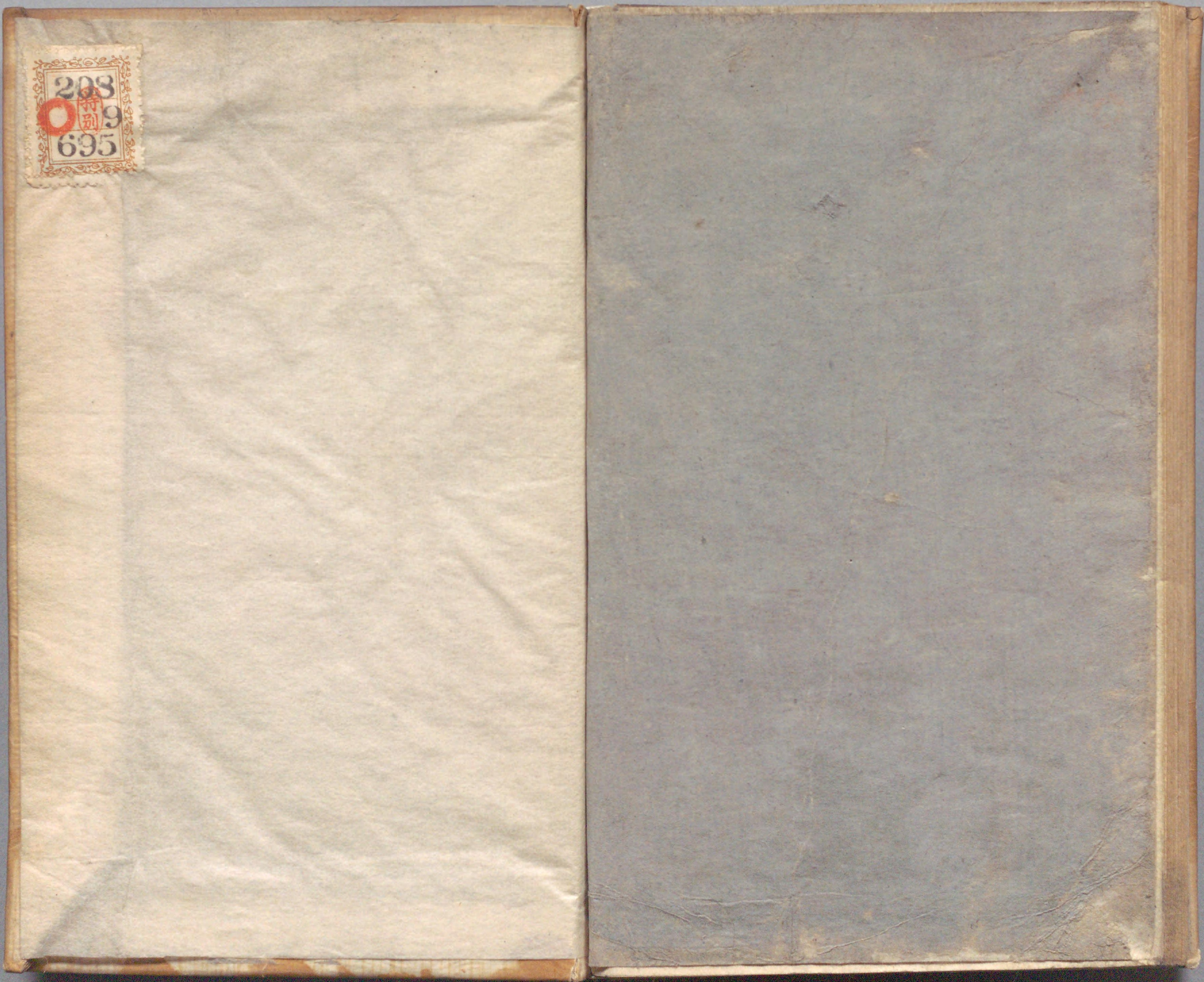
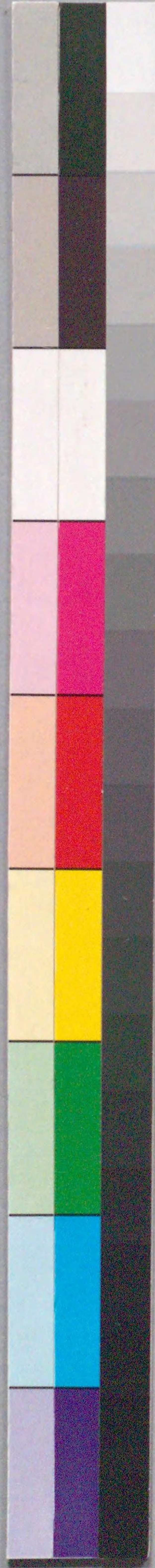




秋雨夜話二編卷之三畢

あーいよ。折らうとく
ハッの鐘 トラ引

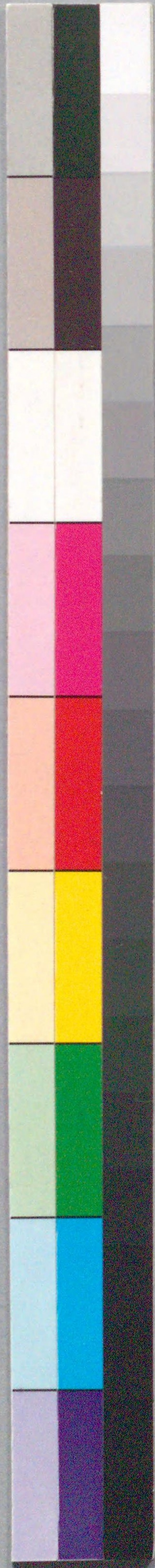




国立国会図書館 秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用





国立国会図書館 秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用